東国
十編上
緑郭
種員化
十編下
国貞画

十編上

# 其由

# 第十編

上冊

種員作

國貞画

緣

鄙侍

東屋製本

記曙文庫



いしくと喰て明石おわきうをと」と川柳点おのひつるも彼物語い八月十五夜須磨明石の二巻より緩初しゆ説り思ひよせる例の滑稽其巻は頃とのを源氏君の御年齢も下賤より男盛年五十五の頃の事なり殊ゆ官位もむきくおいせ潜行も御隨意稗史よ繼案ても化美く面白き趣向も充満ゆ若菜も既り四十の御賀御位階きいえん高くし昔とかいりうろ御有様の更おあく加之源氏中第一の長巻ゆ上手は作ゆ折々い激呼乃こりうも拙筆ゆ短文せんゆ省略ゆ手ゆ不適本文と重くく廻らぬ困ぞろ舒詞の案倦しを詮方おさに團子の狂句で完ておきろ

嘉永癸丑年正月

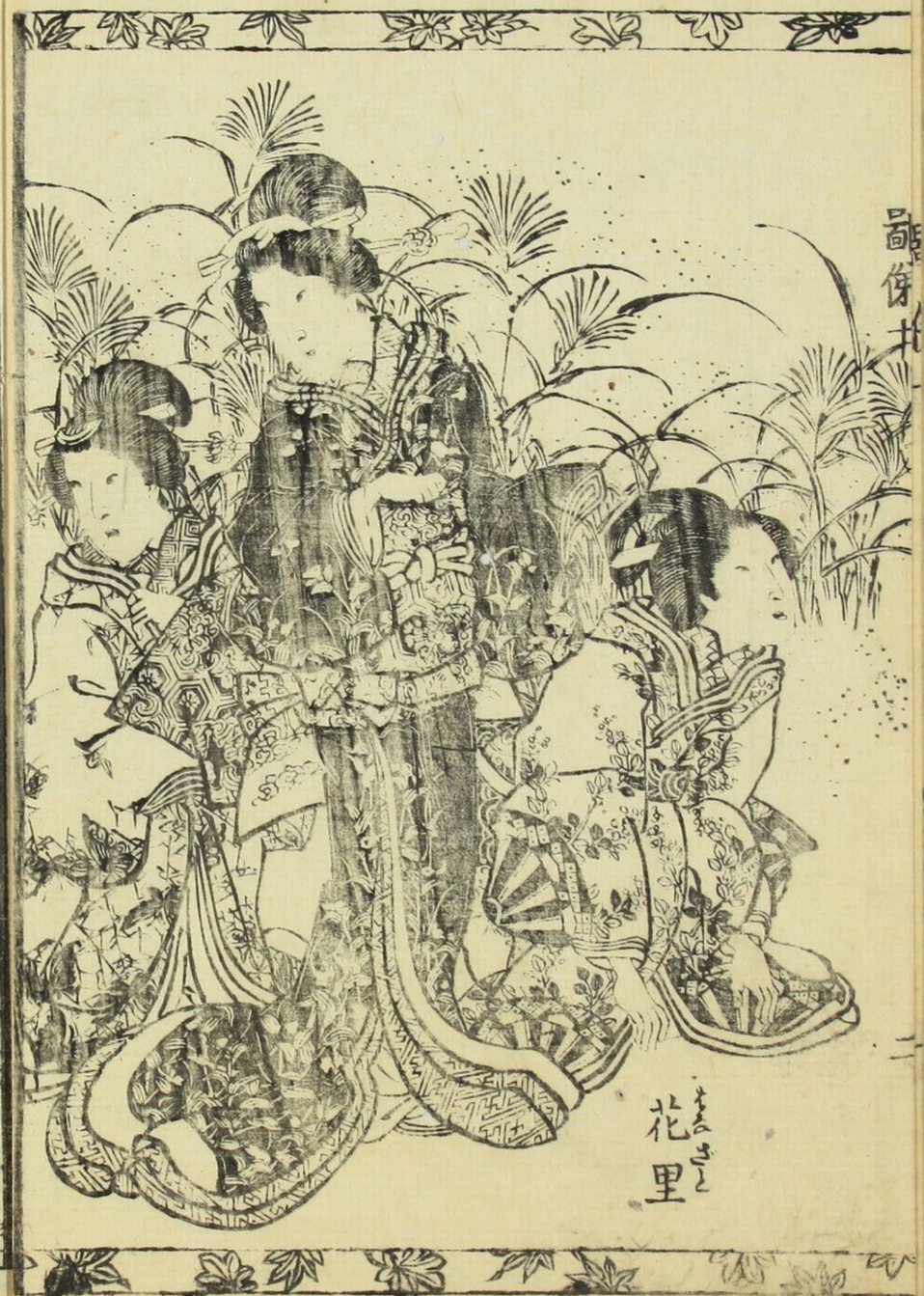
柳下亭種員記

若菜上

豊国画

紫の上

此一丁ハ原書若菜ホ上
村萩
空工衣尼
曲亭主人


花里

輝


祭

つき
きびしくこれを
まもらせおろかのち
ゆるさるべからざるかれ
おせろのきる
こともあらんと
ひとやくそくはそのの
いとまめーでやわ
きびしくつるぐのそのまく
おろせこまるひけり
ことーあるをそろっあまり
のえるのかたちーたひとはな
みあひとこうぶりて六でう
どまるべきとあるあり日の
そのゆるい日どろーろり
てるりとぎきのどるの
ふくきをあけこれおり
たまふ見ばあるものを
見るひとはは六でうぶのあんがを
かさろうさくふせと
きぎー
そぶ
うぐ
を
の
れ
ち

ゆもあるる
れべれれを
おそ
して
るらの家ある
七ケちのおれでら
みやとのうちあ
ゆきさの
あとのうらのそのかさとのろるもか
ちのねんぐとあるくさんとしちろ
ちちぶへもきこえあけぞりぐ
ふそのあるくるまげふのふーい
ゆそきのかるんてあやまあきき
いそのみりやーーく氏中ゴて
そさんのこんは世ふそきめける
ちつけんのそくぐよるもあ
りはのもつくかものかいらふ
たるらさるとぎとえて
よりあとぎはさらふくろ
ふあるらのたえまるく
そのあるとりそもさんの
うんは世とえやくさう
あとぎもまるもむもぶれ
うあるりんのうけぐつしふ
るえんのかぎふいらくる
それうこのうちの氏中と
ゆそうのうふあるれ
どもゆきはくうてのそうの
方はーーこれ公のちうう
あふくまぐふこのさげる
のとのねんぐをあるしまうも
さえぐろまちぶくとくこてろ
とそんさを必いそのてのめと
あとろうせうるあのあろうも
ゆきめくさまはこれふをとん

其山繪師傳

十勇士尼子の魂

兩夜鐘四谷雜談

比奈乃都大内譚

地本繪草紙問屋

# 緑都路

種員作

国貞画

外題 曲亭一団白

十編下

# 其四縁

鄙傳

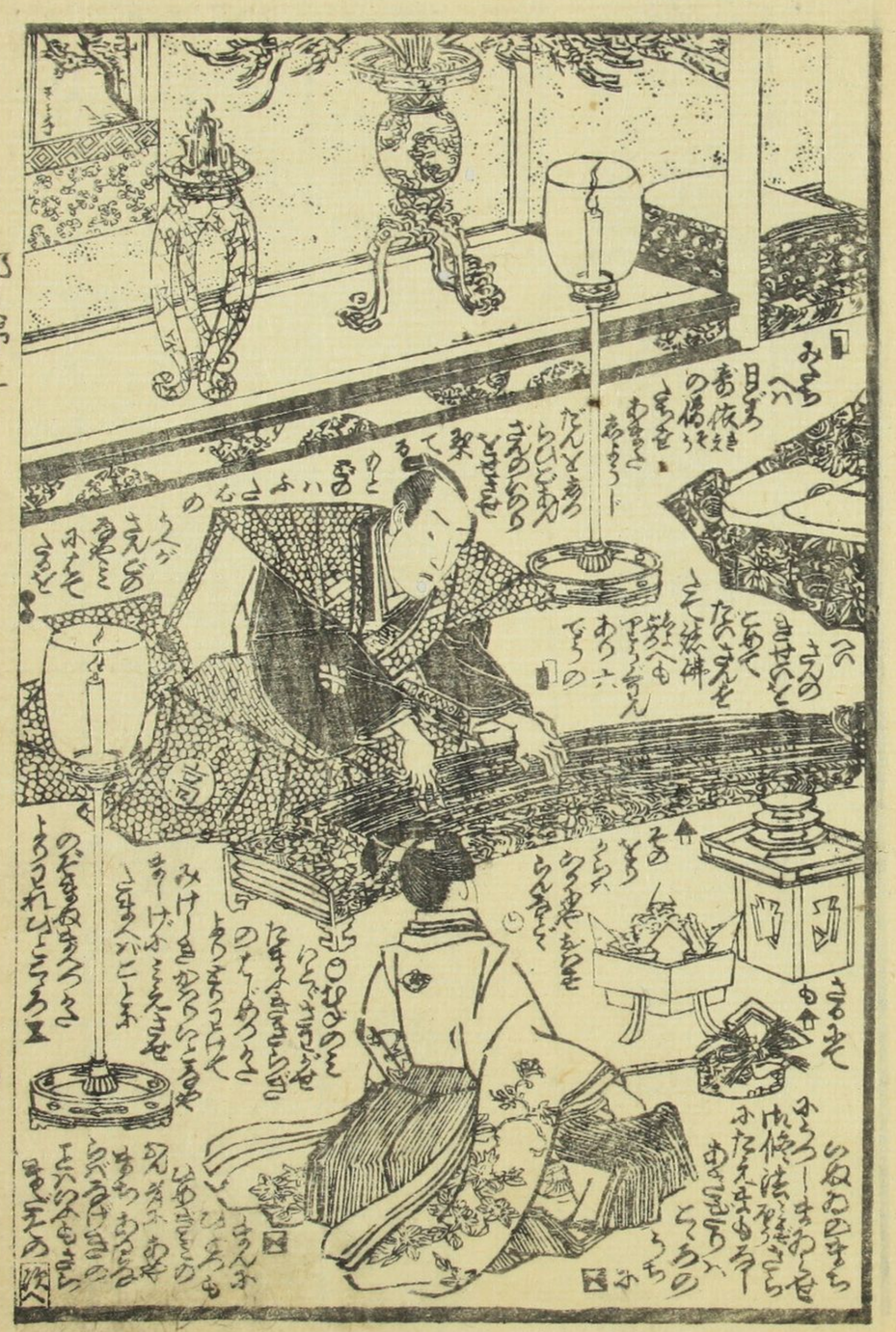
第十編 下冊

錦昇堂梓

種員作

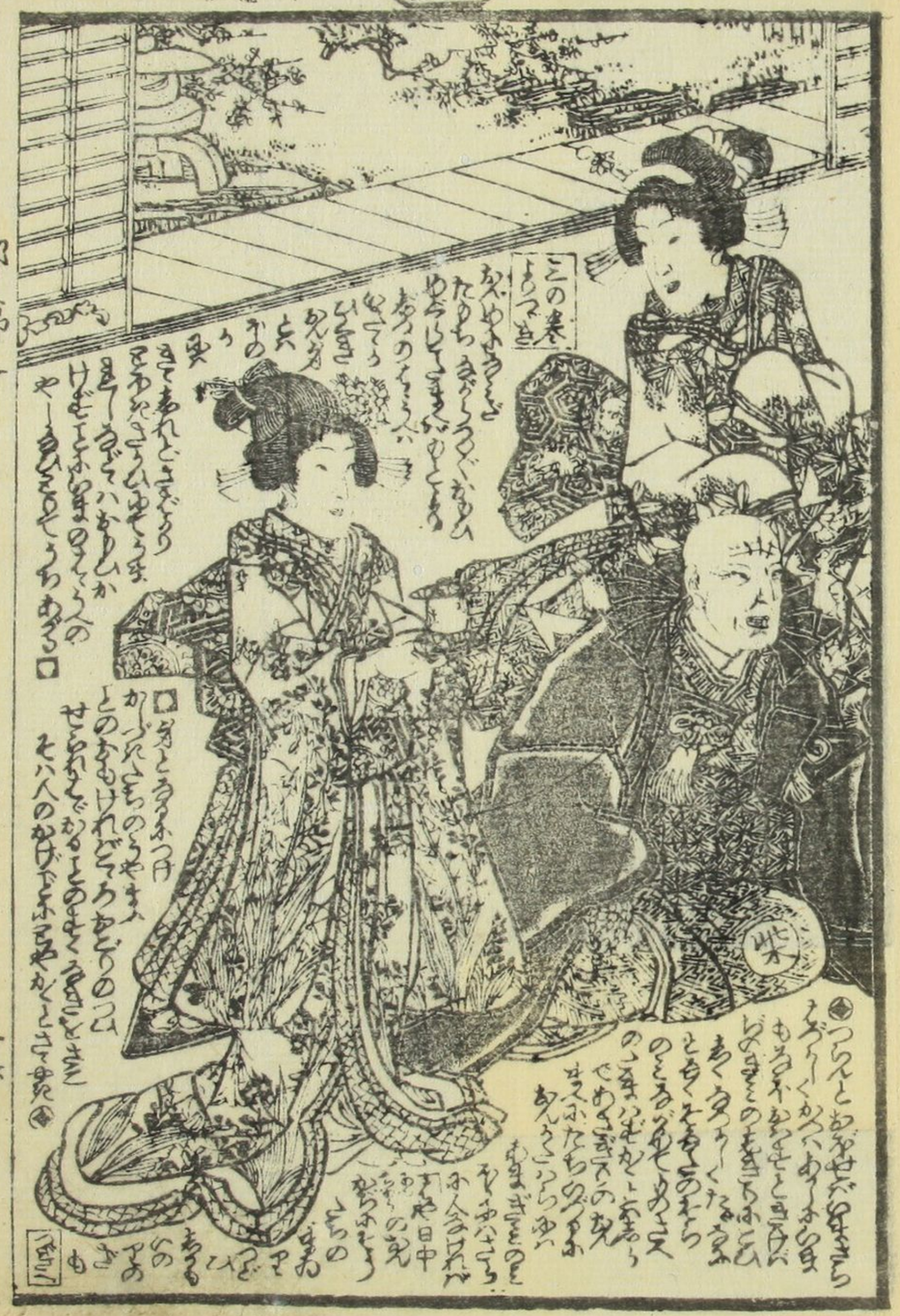
国貞画

高
氏中
御自身
氏中へ賜る
植
公
御教書と
忍ま
事ハ
然ホ



大般若

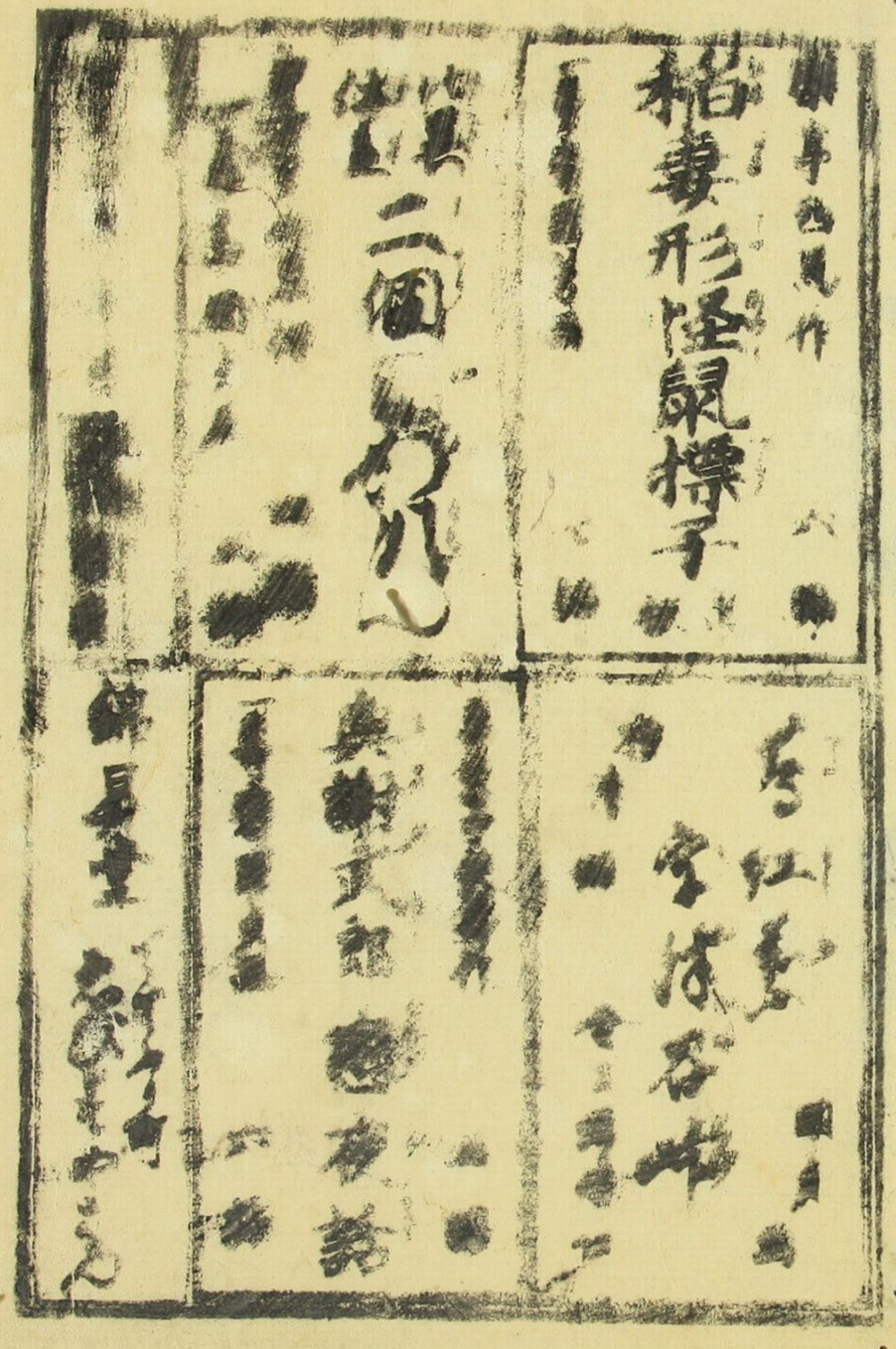
經

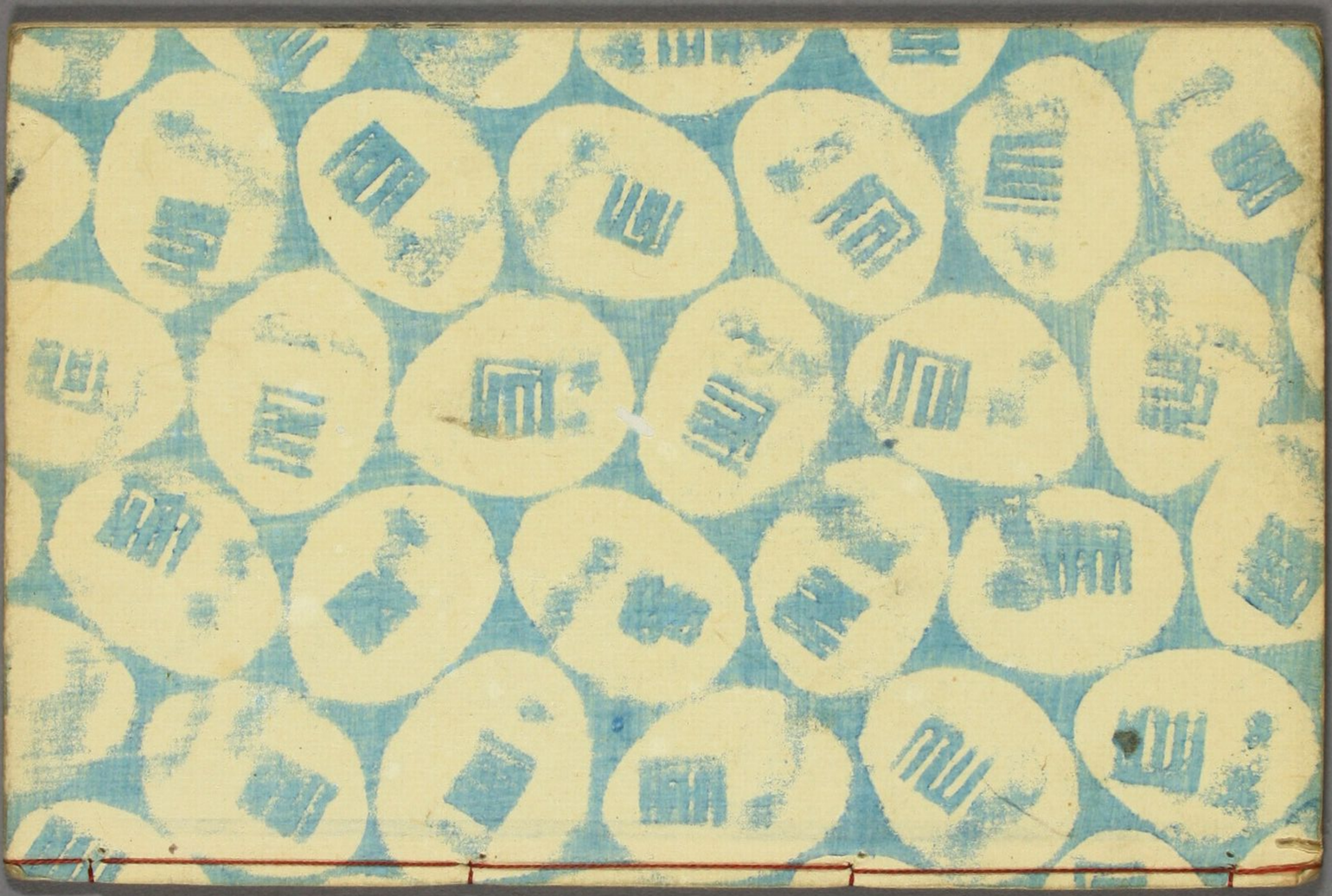


紫
明

種員作　國貞画







# 竹内線

## 都作

下編

国貞画

梅堂作

美濃屋藤